

地域での活動



特定非営利活動法人 高齢者外出介助の会(大阪市)

高齢者の日常生活で、外出先として多いのは病院です。視力、聴力や身体的衰えて、このようなあたり前の外出も危険が伴います。しかし、その外出に絶えず家族が付き添うのは容易なことではありません。いきおい家族も、「家で静かにしてたらいいねん」となってしまうがちです。家族はこれで見守っているつもりでも、これでは高齢者の意欲や能力を奪ってしまっています。外出に同行するボランティアがあれば、このような家族の負担や気の重さを解消し、高齢者も自宅で暮らし続けられます。

高齢者に同行するボランティア組織があればと大阪YMCAを貸してもらえるめどが立った1994年10月に仲間を募って活動を始めました。

依頼や登録に尋ねられた何人かの方から、「これで夢と希望が叶った」と心から喜んでいただきました。

また活動を始める中で、少しでも外出を楽しんで頂きたいという思いがありました。楽しい催しがあれば「行きたい」と前向きになるのではと、コンサートを始めました。今は春、秋、年2回実施しています。

事務所ではボランティアと高齢者を繋いでいますが、気軽に

おしゃべりを楽しめる場として、空きスペース「からほりサロン」を開きました。ふらっと来られる皆さんの楽しいこと、例えば、人形作り、布ぞうり作り、大阪の文学を読む会、童謡・唱歌を歌う会などと小さな願いに応えながら、一人でも多くの高齢の皆さんが自分らしい生き方を続け、介護保険をぶっ飛ばすほどの気力を持って最後まで暮らして欲しいと願っています。その他にも、食事会、暮らしのカルテ作成(見守り)、空堀新聞発行などに取り組んでいます。からほりに来られたらサロンにぜひお越し下さい。ボランティアも大歓迎です。

【連絡先】 TEL & FAX 06-6764-4002



大阪府立松原高等学校「るるくめいと」の活動

“みなさん!こんにちわー 私たちは松原高校るるくめいとですー。” “るるくの意味はー 知るの るー、考えるの るー 動くの くー”

松原高校「るるくめいと」は中学、高校、大学などへ「エイズ出前授業」を行う自主活動グループです。1999年春、松原保健所の飯沼保健師(当時)が松原高校を訪問され、高校生対象の性とエイズを考える「るるく講座」を提案されました。知る、考える、動く、の最後の一字から命名され、エイズについて「行動すること」を目指したものでした。

ワークショップスタイルで学ぶ講座を終え、「みんなにも伝えたい」と発言した生徒たちによって「るるくめいと」が誕生し、2000年より仲間が仲間と学び合うという意味のピア・エデュケーションがスタートしました。

出前授業は、生徒たち手作りのプログラム(クイズHIV、免疫4兄弟、ラビニュー)で「お互いの心とからだを大切に」するメッセージを伝えています。そこで「るるく」が大切にしているのは対話です。HIV陽性者やセクシュアル・マイノリティの方との対話を通じ、「感染しないための予防」から

「陽性者の方とともに生きる」「性の多様性を認める」という思いを大切にしてきました。薬害エイズについても、当事者の方から学んだ内容を出前授業に反映させてきました。

3年間活動した生徒は「高校生がエイズや性についての活動がどれだけ今の時代に求められているか分かった」「公演するたびに自分たちも変わっていくし、公演を見た人も変わることができる。」「同性愛やトランスジェンダーの世界がすぐ身近にあると実感した」と述べています。

こうして「動き」ながら、新たなことを「知る」、そして自分や他者の思いを「考える」を繰り返してきた活動が評価され、2011年3月、朝日のびのび教育賞(朝日新聞社)を受賞しました。十年間の公演は通算100回を超え、50名以上にのぼる「るるく」卒業生は、今、地域の看護、福祉、教育の現場で活躍しています。

